

何を意識すべきか？

藤本 正樹
(JAXA 宇宙研)

1

- (当初はいろいろと言われたが)MMXは世界からの興味も高く、惑星探査界における日本・ISASのvisibilityを高いものとしている
- さらに、MMXの先には火星着陸探査も見据えるのであろう
- そういう段階に来ていることを認識する必要がある

2

- HYBの実行時、その先にHYB2、MMXを見据えていたのだと、世界では理解されている
- それはということなのか
- つまり、ISASでの惑星探査は、工学が先導するものであり、それこそが強みである

3

- H-IIIによるLクラス探査は10年に一度。
- その合間は、イプシロンによって打ち上げられる計画を実行する
- そこで成果を出していくことは容易ではない

4

- その流れでのアリゾナWS
- そこでの(再)発見:
 - ISASの強み
 - ISASでの審査は正しいバランスにあるのか(そこから見えるISASの弱点)
 - 今後の展開の可能性

5

- これだけ「工学のお世話」になっている。
- であれば、いい加減に惑星側もしっかりしないといけないのではないか:特にハードウェア人材の育成プログラム。
- その立ち上げを、コンソーシアムの対応による実行できないか。

6